

武蔵野書院

中古文学会会員様向け特設サイト
2021年9月21日～10月31日

このサイトからのご注文に限り書籍を、
学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料
にてご注文いただけます

ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする、**B** 書籍QRコードを読み取る、
C 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。
A～C のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は中古文学会会員である旨を明記ください。

お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙にてお支払ください（振込手数料小社負担）。銀行振込でも承りますが、その際は振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

*****ご注文・お問い合わせ先*****
武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11
TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839
e-mail : info@musashinoshoin.co.jp



林田先生 畢生のお仕事を全四巻の著作集に集約！
圧巻の計1388頁

林田孝和著作集

各巻定価：本体5,700円＋税 判型：A5判上製函入
刊行日：2021年5月15日
著者：林田孝和
編者：竹内正彦・津島昭宏・太田敦子
春日美穂・畠山大二郎



第一巻 源氏物語の発想
360頁 ISBN：978-4-8386-0750-1



第二巻 源氏物語の精神史研究
312頁 ISBN：978-4-8386-0751-8



第三巻 源氏物語の創意
360頁 ISBN：978-4-8386-0752-5



第四巻 王朝文学の精神史研究
356頁 ISBN：978-4-8386-0753-2



山下太郎 著 **王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—**

新しい古典としての歌物語と日記物語

第一部には、歌物語に関連する四編の論を、また第二部には、日記物語を取り上げた十一編の論を収載した。検証作業に一貫するものは、読書の渉獵による諸説の丹念な吟味、定説への挑戦と妥協の排除である。『和泉式部日記』を中心に据え、著者21年間に亘る研究成果を一冊に凝縮した。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁
刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0756-3

廣田收先生 源氏物語研究三部作



廣田 收 著 表現としての源氏物語

平安京の物語の表現とは何か

つまり、平安京の物語とは、『源氏物語』をひとつの極とする一方、（互いに影響関係の希薄な）『宇治大納言物語』をもうひとつの極とするであろう。すなわち『枕草子』が興味を示し、記録している物語の中で、（『宇津保物語』や『住吉物語』などを除いて）群小物語がひとつの核をなすまでには至らないとすれば、平安京の物語とは、そのような二極を含む、緩やかな楕円的な世界を意味するであろう。そのように考えることで本書において、ようやく説話としての『宇治拾遺物語』、『宇治大納言物語』をも対象とすることができる。つまり、本書は「表現としての源氏物語」と題しているが、内容からいうと、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』を、かろうじて「平安京の物語」として捉えることが見通せるのではないかという目論見を隠している。

定価：14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 602頁
刊行日：2021年6月23日 ISBN：978-4-8386-0755-6

廣田 收 著
文学史としての源氏物語



紫式部という存在を睨み据えつつ…

わが国文学研究のめざすところは、日本的な精神や心性mentalityの解明だけではないし、逆に普遍的な元型archetypeの発見だけでもない。まさに『源氏物語』がどのような仕掛けや仕組みによって構築された本文であるかを明らかにすることを目的とする、と言挙げすればよいのではないか。

ひとこと言えば、紫式部という存在を睨み据えながら、古代の古代、古代の近代との併存する本文としての『源氏物語』を、基層と表層との重層性において捉えるという目論見である。

定価：本体11,000円＋税
判型：A5判上製カバー装 352頁
刊行日：2014年9月26日
ISBN：978-4-8386-0276-6

廣田 收 著
古代物語としての源氏物語



『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場

「研究として『源氏物語』をどのように読むのか」というとき、こう読まなければならないという決まった読み方が最初からあるはずもないが、ただ単に恣意的な読みを披露し、散漫な感想を述べるだけでは『源氏物語』の研究としての読みに共感を得られないであろう。

なぜならば、私的な読みに思わず知らず現代のもしくは近代的な基準による解釈が紛れ込む可能性があるからである。

『源氏物語』を「古代物語として読む」という立場である。

定価：本体11,000円＋税
判型：A5判上製カバー装 368頁
刊行日：2018年8月25日
ISBN：978-4-8386-0712-9

中野方子 著 三稜の玻璃
—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—



安朝文学、漢文学、仏典が交叉し生み出す、複雑な光の饗宴

三稜の玻璃（プリズム）を透過した白色光は、七色の彩となって現れる。古のことも、三稜の玻璃を通して、これまでとは異なる始原の相貌をもって輝き出すのではないか。業平、貫之、友則、伊勢の和歌や、『伊勢物語』、『源氏物語』を中心とした平安朝文学と漢詩文、仏典という三面のジャンルが交叉し、交響し合う論文集

定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 460頁
刊行日：2021年3月10日 ISBN：978-4-8386-0745-7



藤井 由紀子 著 **異貌の『源氏物語』**

『源氏物語』とは何か

『源氏物語』には、膨大な研究史があるにもかかわらず、いまだ解釈が揺れている箇所が存在する。一方で、批判的な検証を経ないまま定説化している言説もある。それらの箇所を、「ことば」一語一語に拘り、精緻な本文解釈を目指して再検討することで、既存の〈読み〉の見直しを図る。さらに「もののけ」「魂」「夢」「猫」といった事象を通して、『源氏物語』に描かれた「心」の問題に迫る。

中古・中世の物語文学を研究してきた著者はじめての論文集。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 284頁
刊行日：2021年5月10日 ISBN：978-4-8386-0749-5



久保朝孝 編
发起人：神田龍身/福家俊幸/外山敦子
危機下の中古文学2020

総勢42名の中古文学研究者はこの危機下で何をなそうとしたのか？

2020年は、気候変動による甚大な自然災害の多発、新型悪性感染症の世界的蔓延、新自由主義経済が招来する貧富差の拡大、国家・民族・人種間の分断、民主主義の脆弱さの露呈、そして核兵器を中心とする軍事力拡大競争など、人類の生存に関わる自然と人為的な脅威が多発した年、危機下の一年として、いずれ回想されることになる。そのような一年を、文学に関わる者として我々はどのように過ごしたのか。将来そう問われたときに、何と答えるべきか。中古文学研究という場において、我々は何をなし得たのか、あるいは何をなそうとしたのか。本書は、この問いに対する回答を研究論文集として一書にまとめ、広く江湖に提示するものである。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 648頁
刊行日：2021年3月5日 ISBN：978-4-8386-0744-0



久保朝孝 編 **源氏物語を開く**
専門を異にする国文学研究者による論考54編

『源氏物語』研究を開放したい、それが本書のねらいである。

日本の古典文学を代表するこの作品は、千年という途方もない時間の試練に堪え得たものだけに許される、きわめて分厚い研究の歴史を含有する。また、それは現在も止まることなく、陸続と新しい研究成果が公表され続けている。それゆえに、その研究史を、そして研究の現在を把握しなければ、『源氏物語』について論じることが困難になってしまっているのではないかと。

本書は、『源氏物語』研究を従来の『源氏物語』専門または中古文学研究者以外の国文学研究者に広く開放し（あるいは参画を促し）、新たな視点・方法・問題意識等を自由に導入することによって、『源氏物語』研究および作品世界を一層拡大・深化させる機縁とするものである。



定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 720頁
刊行日：2021年3月31日 ISBN：978-4-8386-0746-4



青木慎一 著 **源氏物語の表現と絵画的展開**
—夕霧を中心に—

夕霧の童殿上から「源氏絵」解釈の世界へ

子どもとその成長をめぐる表現を夕霧を中心に探る。子どもの詠む和歌、幼少期の通過儀礼といった微視的な『源氏物語』論は、光源氏の家や人物をめぐる虚構の物語生成論へと展開する。夕霧の物語をめぐる物語テキストと「源氏絵」との密接な関係が、物語の視覚化による巨視的な『源氏物語』享受史と解釈学に通じている。『源氏物語』テキストと「源氏絵」とが交響する新たな研究の書。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 378頁
刊行日：2019年5月17日 ISBN：978-4-8386-0720-4



諏訪園 純 著 **〈今・ここ〉に効く源氏物語のつづやき**

源氏物語の「つづやき」に耳を傾けてみませんか？

物語や小説を読む中で、登場人物が何となく口にした言葉がいつまでも心に残ることがある。文脈と言う衣を取り去った後に残るむき出しの言葉の断片は、読者の生きる〈今・ここ〉に解き放たれ、ときに人を導き、ときに人を励ます。

そんな源氏物語の「つづやき」を一つひとつ抜き書きし、テーマごとに整理した本書は、時代小説や恋愛小説とは違った、もう一つの源氏物語像を提示するものである。源氏物語の言葉について、その過去や来歴を振り返るのではなく、我々の〈今・ここ〉と掛け合わせることで、それをありのままに享受しようとするとき、物語の言葉はストーリーのくびきから解き放たれ、場面や巻を隔てて交響し、多声的な意味を生成することであろう。



定価：本体1,200円＋税 判型：四六判並製カバー装 232頁
刊行日：2018年10月10日 ISBN：978-4-8386-0481-4



山田利博 著 **よく和歌る源氏物語**

源氏見ざる歌詠みは……

歌詠みにとって必読の書と言われる『源氏物語』。しかし、物語に含まれる795首という『古今集』なみの和歌の数だけを見ても、どこから手をつけたら良いものか、頭を悩ませるところなのかもしれません。

そこで、本書では肩肘張らずに『源氏物語』の和歌の世界に足を踏み入れられるように、和歌作りに役立つであろうエピソード20話を紹介し、読者を「源氏物語と和歌の世界」へと誘います。



定価：本体1,500円＋税 判型：四六判並製カバー装 224頁
刊行日：2017年10月28日 ISBN：978-4-8386-0475-3



武蔵野書院創業百周年記念出版

池田和臣 著 源氏物語生々流転 論考と資料

世界文学史の中でも、とりわけ早くに成立した傑作、『源氏物語』を成り立たせ得たものは何なのか。

仮名で物語を書くことには、どのような問題がはらまれていたのか。革新的で多様な方法、深い認識と思想、個性的な人間造型など『源氏物語』の独自の世界形成はどのようにして獲得されたのか。『源氏物語』作者紫式部が、自らに先立つ文学的伝統—仮名表記史あるいは文学史の状況—とどう向かい合い格闘したのかを、様々な側面から考える。本書は、『源氏物語』が、仮名で書かれた物語としてどのように自己形成し、ことばの世界としてどのような思想—世界観・人間観・文学観・美意識など—を生成し表現したのか、そして、その本文がどのように流転し変容し、様々な享受形態—注釈・評論・秘伝など—を生み出し、文学・文化・政治の世界に根を張っていったのかということの探求、『源氏物語』の生成と世界と流転の探求の痕跡である。

定価：本体16,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 540頁
刊行日：2020年3月31日 ISBN：978-4-8386-0729-7



武蔵野書院創業百周年記念論集

和田律子・福家俊幸 編 更級日記 上洛の記千年 —東国からの視座

『更級日記』の作者、菅原孝標女が数えて13歳の寛仁4(1020)年に東国上総より京へ上洛してから令和2(2020)年でちょうど千年。『更級日記』は今まで「京」を中心に論究されることが暗黙の了解であったが、この機会に『更級日記』の書き出しである東国からの視座による論文集を企画。

本論集は文学研究者のみならず、歴史学の研究者、さらには上総市原で永年調査・分析を行う房総古代道研究会のみなさんにもご登壇いただくなど、実に多士済々な執筆陣が、専門領域を超えて多角的な視座で論ずる。

カバー絵は太田聴雨筆の『更級日記』、東国上総で薬師仏にひたすら祈る少女の姿が端正に描かれている。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 438頁
刊行日：2020年7月20日 ISBN：978-4-8386-0731-0



深沢 徹 著

日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか? —リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持し、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄を、いわゆる「リベラル・アーツ」の営みとの関連で明らかにしていきたい。

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁
刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7



高橋由記 著 **平家文学の人物と史的世界**
—随筆・私家集・物語— 並製版

平家文学に描かれた人物の実像や史的世界の
丹念な分析と可視化の試み

並製版にて重版

平家文学に描かれた貴紳・後宮・女房の実像を、漢文記録類・諸家集の読み解きから探る粘り強い試み。

『枕草子』や『栄花物語』が何を描き、何を描かなかったか、文学作品の特異な手法が見えて来る。

漢文日記や名家秘蔵の家集類が一斉に公開、刊行、施注されてきた近年の学界状況に柔軟、貪欲に挑み、これまで空白だった後宮空間の歴史が豊かに再現される。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 438頁
刊行日：2021年3月31日 ISBN：978-4-8386-0747-1



斎藤 菜穂子 著 **新装版 蜻蛉日記新考**
—兼家妻として「書く」ということ—

新装版。並製にて少部数作成

本書は、『蜻蛉日記』の作者道綱母が「兼家妻」として「書く」自意識に着眼し、その意味について一貫して論じてきた著者の第二論文集である。

兼家の「書かせる」というその意志は、道長（『源氏物語』）へ頼通（『更級日記』『四条宮下野集』等）へと受け継がれ、九条流撰関の豊饒な文化世界を現出させた。その大きな画期として『蜻蛉日記』があったことを、本書は全編で語っている。

表題の「新考」にふさわしい、新鮮斬新な論集が刊行された。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 288頁
刊行日：2021年6月15日 ISBN：978-4-8386-0754-9



高田信敬 著 **文献学の栞**

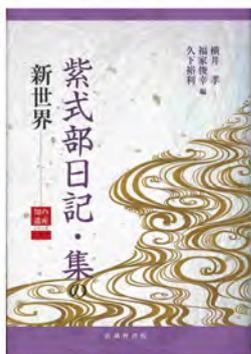
本書では、源氏物語から江戸明治の文献を取り扱う。

先学の記述にならって文献学中の二つの柱、文献の具体的吟味と文献の実際的使用を、第一部「典籍叢説」と第二部「訓詁注釈の試み」に振り分け、それぞれに有縁の考証を配した。

作品の言葉を相手とし言葉によって研究を形にする以上、国文学の研究者もまた、言葉の徒でなくてはならない。

文献学の高い目標、少なくともその一つは、文献の適切な理解・歪みのない解釈にあるのではないか。

定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 442頁
刊行日：2020年12月15日 ISBN：978-4-8386-0738-9



横井 孝/福家俊幸/久下裕利 編
知の遺産シリーズ⑦ 紫式部日記・集の新世界

横井 孝：文学史上の『紫式部日記』『紫式部集』
 上原作和：紫式部の生涯—『紫式部日記』『紫式部集』との関わりにおいて—
 笹川博司：『紫式部日記』『紫式部集』の成立
 —古本系集に増補された「日記哥」から考える—
 山本淳子：現行『紫式部日記』の形態
 —冒頭・消息体・十一日の暁、『枕草子』にも触れつつ—
 福家俊幸：敦成親王誕生記としての『紫式部日記』—『栄花物語』との関連から—
 廣田 收：『紫式部日記』『紫式部集』の中の紫式部
 —中宮彰子サロンの中の紫式部—
 福家俊幸：『紫式部日記』『紫式部集』の中の女房たち
 久下裕利：『紫式部日記』寛弘六年の記事欠落問題
 末松 剛：『紫式部日記』の儀礼・服飾・室礼
 川名淳子：『紫式部日記絵巻』の視点—描かれた〈紫式部〉像—
 上野英子：『紫式部日記』『紫式部集』
 —研究の現在と展望—付、主要文献目録（二〇〇〇年～二〇一八年）

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 280頁
 刊行日：2020年5月15日 ISBN：978-4-8386-0489-0



後藤康文/倉田 実/久下裕利 編
知の遺産シリーズ⑥ 狭衣物語の新世界

後藤康文 文学史上の狭衣物語—“衞学”の美学—
 久下裕利 『狭衣物語』の成立とその作者
 今井久代 『狭衣物語』の異文と改変
 倉田 実 『狭衣物語』と『源氏物語』—その時代相を中心として—
 井上新子 『狭衣物語』と六条齋院物語歌合
 萩野敦子 狭衣と源氏宮—その形代となる宮の姫君まで
 倉田 実 狭衣と女二宮—その即位まで
 野村倫子 狭衣と飛鳥井君—その娘の行方まで
 井上眞弓 『狭衣物語』の人脈と空間
 —二人の姫を巡る人脈と堀川邸西の対という空間—
 鈴木泰恵 『狭衣物語』の超常現象—天稚御子降下と天照御神託宣—
 後藤康文 『狭衣物語』の引歌・歌ことば—作中歌の形成と受容をめぐって—
 久下裕利 『狭衣物語』の古筆切
 川崎佐知子 『狭衣物語』の注釈書
 有馬義貴 『狭衣物語』—研究の現在と展望
 —付、二〇〇〇年以降の研究文献目録

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 272頁
 刊行日：2019年2月25日 ISBN：978-4-8386-0483-8



横井 孝/久下裕利 編
知の遺産シリーズ⑤ 宇治十帖の新世界

倉田 実 文学史上の宇治十帖
 上原作和 宇治十帖と作者・紫式部—「出家作法」揺籃期の精神史—
 横井 孝 後篇の物語の構造
 有馬義貴 薫の宿世と恋—大君の反論をめぐって—
 横井 孝 八の宮の遺言と大君の進退
 井野葉子 中の君と匂宮との結婚—立坊・「幸ひ人」・腹帯・歌ことば—
 久下裕利 浮舟設定と入水前後
 浅尾広良 按察大納言の羨望—繰り返される〈按察使大納言〉—
 廣田 收 式部卿宮の姫君の出生
 新聞一美 宇治十帖と漢詩文世界
 久下裕利 宇治十帖と国宝『源氏物語絵巻』
 咲本英恵 宇治十帖のその後—『雲隠六帖』の世界
 今井久代 宇治十帖—研究の現在と展望—付、主要文献目録（二〇〇六年以降）

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 328頁
 刊行日：2018年3月16日 ISBN：978-4-8386-0477-7



近藤 さやか 著 仮名文テキストとしての伊勢物語

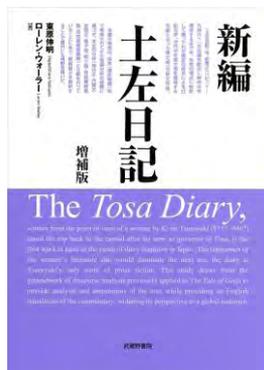
仮名の可能性と〈音〉への関心

『伊勢物語』の仮名に注目した意識と表現を考察し、有名章段—二条の後章段・東下り章段・斎宮章段・惟喬親王章段—だけではなく、これらの章段を中心に作品全体を通して読解できることを論じた。

『伊勢物語』は和歌と仮名の可能性を広げた作品だという、文学史上の位置付けを示すことができれば幸いである。



定価：本体8,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 250頁
刊行日：2018年12月10日 ISBN：978-4-8386-0715-0



東原伸明/ローレン・ウォーラー 編

新編 土左日記 増補版

『土左日記』は、紀貫之（871?～946?）が任国を船出し呻吟の末帰京するまでを、女性の視点に仮託して綴ったわが国初の仮名による日記文学。次代の女流文学を領導する先駆となった貫之唯一の散文作品。

本書の特色は、従来『源氏物語』等で実践されてきた言説分析の成果に基づき、本文の分析（地の文・内話文・会話文・草子地・移り詞・自由間接言説・自由直接言説等）と注解を行っていることにあり、解説部分を英訳することで国外にも視野を開いた。

増補版において、参考文献を一部修正するとともに、大幅に増補した



定価：本体1,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 144頁
刊行日：2020年9月25日 ISBN：978-4-8386-0656-6



山田利博 著 文学としてのマンガ

平安文学の専門家が、裏専門のマンガ・アニメを語る！

文学とはなにか。それは「作者」が「想像力」によって「虚構の世界を作り」「思想」や「感情」を表現したものではないのか。絵であらわされているか、文字であらわされているかはさほど問題ではない。その証拠に、マンガは特に古典文学に通ずるところがある。『セーラーMoon』は『竹取物語』、『魔法少女もの』や

『CITY HUNTER』などには「異界」の面影がある。古典と称される文学が有形無形に今に影響を与え、マンガやアニメに奥行を与えてゆく。マンガを読もう。あわせて古典などの文学も読もう。それがどちらもさらに面白く読むコツだといえよう。著者が時間をかけて楽しんだ結果を皆様に。



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 248頁
刊行日：2020年3月26日 ISBN：978-4-8386-0488-3



武蔵野書院創業百周年記念企画

東原伸明/ローレン・ウォーラー/ヨース・ジョエル/高西成介 編著
万葉集の散文学—新元号「令和」の間テクスト性

『万葉集』の間テクスト性＝テクスト論的研究を提案

第一部は、高知県立大学の教員に、万葉学者の上野誠氏を招聘し敢行した、新元号「令和」の典拠をめぐるシンポジウムの模様を収録。第二部は、『万葉集』のテクスト論的な実践、『文選』の日本における受容の論、元号をめぐる政治的な思想論を展開。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 354頁
刊行日：2021年6月25日 ISBN：978-4-8386-0494-4



武蔵野書院創業百周年記念企画

東原伸明/山下太郎 編著
大和物語の達成—「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価

大和物語の再評価

大和物語は従来、伊勢物語と共に「歌物語」というジャンルで一括されてきた。しかし、その括りで一括することが、果たして適正であったか。脱構築し、「歌」じたいの位相を見極め、「散文」への方法性を模索することなど再検討の時機に来ている。本書は、大和物語のじたいの達成を見極め、再評価することを希求する。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 400頁
刊行日：2020年5月20日 ISBN：978-4-8386-0490-6



京都と文学研究会 編 ものがたりたちの京都 京都文学入門

人間と地域の関係が問い直されている今——専門的知見から、京都文学、ひろくは、地域文学を読むことの価値を解き明かす！

人間と地域との関係が問い直されている今——専門的知見から、京都文学、ひろくは、地域文学を読むことの価値を解き明かす！



定価：本体1,500円＋税 判型：四六判並製カバー装 228頁
刊行日：2019年10月12日 ISBN：978-4-8386-0484-5



内と外、都と鄙、王権と民、中心と周辺、既知世界と未知世界。それらの中間に作者と作品は位置して、二つの世界を往還する。流転に近い生態があるからこそ、文学は循環しながら展開する。そのようなサイクルの中で、作者のみならず読者も旅を続ける。……本書はそのような旅をする試みである。



飯泉健司 著 文学に旅する

内と外、都と鄙、王権と民、中心と周辺、既知世界と未知世界。それらの中間に作者と作品は位置して、二つの世界を往還する。流転に近い生態があるからこそ、文学は循環しながら展開する。そのようなサイクルの中で、作者のみならず読者も旅を続ける。……本書はそのような旅をする試みである。

定価：本体5,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 378頁
刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0495-1



武蔵野書院創業百周年記念出版 檜垣 孝 著 長秋詠藻全評釈 上巻 (全三巻)

本『長秋詠藻全評釈』上中下三巻は、いわゆる第二類本『長秋詠藻』のうち俊成自撰部分四八〇首の全評釈を試みたものであり、本上巻は、いわゆる「久安百首」と「述懐百首」の評釈である。

「久安百首」については、先に上梓した『俊成久安百首評釈』（武蔵野書院、平成十一・一）を利用し、内容には適宜修正加筆を心がけ、注記を本文に繰り入れるよう変更した。なお、「久安百首」は俊成詠の百首歌という意味、『久安百首』は崇徳院主催の百首歌という意味で、括弧の表記を書き分けて示した。「述懐百首」は、その歌題を百首百題形式の『堀河百首』に倣っているが、まま歌題が異なる場合もある。歌題が『堀河百首』と異なる場合はその旨を記し、『長秋詠藻』の他の諸本も参照した。『堀河百首』以前の類題集である『古今和歌六帖』『和漢朗詠集』『新撰朗詠集』に該当歌題があるかどうかについて調査し、また、題詠歌としての歌題という観点から、特に「述懐百首」成立以前の歌合作品の歌題についても検討することに務めた。

定価：本体14,500円＋税 判型：A5判上製貼函入仕様 544頁
刊行日：2021年8月19日 ISBN：978-4-8386-0758-7



武蔵野書院創業百周年記念出版 檜垣 孝 著 長秋詠藻全評釈 下巻 (全三巻)

『長秋詠藻』は、平安時代末期の歌人藤原俊成の私家集（個人歌集）。全三巻からなる。俊成の自選により1178年（治承2年）、守覚法親王に謙譲された。俊成が皇太后宮大夫であったので、皇太后宮を長秋宮といふのにちなんで命名された。

本書は、いわゆる第二類本『長秋詠藻』のうち、俊成自撰部分四八〇首の全評釈を試みたものである。自撰部分の後に加えられている「右大臣家百首」一〇〇首は、仮名に適宜漢字を当てると読みやすいよう整えた本文のみを掲出するとどめた。また、本書底本の最後にある奥書も本文のみを掲出するとどめた。

『長秋詠藻』の本文は、『私家集大成』第三巻・中世Ⅰ（明治書院、昭和四九・七）に、『俊成Ⅰ』として収められたものを底本とした。該本は俊成自撰の原型本四八〇首に「右大臣家百首」一〇〇首を加えた五八〇首よりなる第二類本にあたり、藤原定家筆本の臨写本である宮内庁書陵部蔵『長秋詠藻』（五〇一・一七二）を忠実に翻刻したものである。

定価：本体12,500円＋税 判型：A5判上製貼函入仕様 464頁
刊行日：2018年3月31日 ISBN：978-4-8386-0710-5



実川恵子 著 後拾遺和歌集 新風と「をかしき風躰」

『後拾遺和歌集』を雑歌や女性歌人詠など
様々な視野から探究する

白河天皇の勅命で編纂された『後拾遺和歌集』の「雑部」は、『古今和歌集』を基盤としながらも、撰者通俊の庶幾する新風が示される。それらの詠歌に触れ、藤原俊成が『古来風躰抄』で「ひとへにをかしき風躰」ととらえた新奇な発想と表現に着目し、その独自の編纂・構造の意図を探る。また和泉式部らの女性歌人増大の意味についても考察、平安後期和歌史の終着点たる『新古今和歌集』に向かう端緒を開く勅撰集として注目してきた著者積年の力作。

定価：本体8,800円＋税 判型：A5判上製カバー装 220頁
刊行日：2020年3月16日 ISBN：978-4-8386-0728-0



武田早苗 著 平安中期和歌文学攷

精妙な構造体としての平安中期和歌文学に迫る

第一部では『和泉式部日記』と『和泉式部集』を中心に、また第二部では歌集・日記から家集や物語まで、著者独自の考察を多角的に展開する。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 408頁
刊行日：2019年12月15日 ISBN：978-4-8386-0725-9



中本真人 著 内侍所御神楽と歌謡

内侍所御神楽は何故
延引と追行を繰り返しながら継続したのか？

本書は、平安朝から南北朝期にかけての内侍所御神楽とその中でうたわれた神楽歌、さらには周辺の儀礼を研究対象とした。本書に収めた論考は、おおむね時代順となっているので、内侍所御神楽の通時的な展開も追っていただけるようになっている。なぜ内侍所御神楽が継続できたのか、その中でどのような変化が起こったのか、本書の先にある課題も見据えつつ、基礎的研究を示したいと考えている。

定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 312頁
刊行日：2020年12月25日 ISBN：978-4-8386-0739-6





今野真二 著 テキストの変容—動態としてのテキスト

明治から昭和にかけて成立したテキストを共時的に観察する

言語化されていない「情報」が言語化というプロセスを経て、言語と
なってきたをあらわす。言語単位でいえば、語をかたちづくり、語に
よって文をかたちづくり、文がまとまって文章、テキストとなる。

本書では、そのテキストが「書き手」やその他の事柄によってかたちを
変えていくということについて、夏目漱石、岸田國士、島崎藤村、齋藤茂
吉、森鷗外、江戸川乱歩にかかわるテキストを採りあげて、言語面から分
析、考察を試みる。



定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 516頁
刊行日：2021年5月7日 ISBN：978-4-8386-0748-8



芝波田 好弘 著 方丈記試論

『方丈記』研究史上に新局面を拓く試論を提起する

『方丈記』は作者名の問題も含め、いまだに解釈・理解の相違を
多々抱える難物である。本書はその難物の魅力に取り憑かれた著者
が、作者試論・諸本と本文の分析・序章と五大災害の記述について
の試論など、さまざまな角度から『方丈記』を分析し、検証に次ぐ
検証を重ねた雄編である。



定価：本体14,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 652頁
刊行日：2021年8月4日 ISBN：978-4-8386-0757-0



井上次夫・高木史人・東原伸明・山下太郎 編 次世代に伝えたい新しい古典 —「令和」の言語文化の享受と継承に向けて

上代文学「古事記」から近代文学「土」までの日本文学、そして国
語教育、日本文化に「令和」の視点からいま、新しい光を当てる。



定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 272頁
刊行日：2020年3月10日 ISBN：978-4-8386-0655-9



田村 由美子 著 **日本文学の原風景**

いにしへの史跡を旅し
日本の風土に深く根差した
古典文学の原風景を逍遙する

「旅」で訪れた現地の風景に、日本の古典文学作品の原風景を発見し、さらに著者の古典学習の原点である『源氏物語』についての気づきを独自の切り口と多様な視点から探究する。くわえて、これら古典文学の背景にある日本独特の文化を、アメリカ人に紹介した文化交流の実践記録としてまとめた。



定価：本体3,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 364頁
刊行日：2020年11月22日 ISBN：978-4-8386-0491-3



高橋秀城 著 **法の水茎—和歌とおはなしでひもとく仏教—**

高尾なる緑もふかき法の山飯繩の御威永遠に変わらじ

いにしへの和歌や説話、古典文学には仏さまの教えがちりばめられている。また、その教えをもとに書かれた作品も少なくない。

本書はこれらの古典作品を手がかりとして、仏教の奥深い教えに近づくことを目的として書かれた、ひとつの道しるべ。

高尾山薬王院発行の『高尾山報』に、普濟寺住職である著者が、八年に亘って連載している『法の水茎』1～100話をこの一冊に収録。悩み多き現代人に贈る、言わば百話の心の処方箋。住職ならではの優しい語り口が、読者を仏の御心へと誘う。



定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 452頁
刊行日：2021年3月11日 ISBN：978-4-8386-0492-0



三上 満 編著 **歌めき 三上満贈答歌集**

歌による会話という、王朝和歌のたしなみ
復権の願いを込めて世に問う贈答歌集

教員生活の掉尾を飾るべく？ とある女子校に産休代用教員として赴任した著者が、生徒との日常のふれあいを通して生み出した詩的結晶ともいえる贈答歌を中心に、人との絆を求めて作り重ねた、半生の詠作をまとめた珠玉の短歌集。



定価：本体800円＋税 判型：A5変形判並製カバー装 134頁
刊行日：2021年9月9日 ISBN：978-4-8386-0496-8

注文書 Fax 03-3291-4839

Mail : info@musashinosho.in.co.jp

この注文書でご注文いただければ、学会割引（税込定価の2割引+送料無料）を適用させていただきます（2021年10月31日まで）

書籍名	価格	部数	公費・私費
林田孝和著作集 第一巻 源氏物語の発想	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第二巻 源氏物語の精神史研究	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第三巻 源氏物語の創意	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第四巻 王朝文学の精神史研究	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
表現としての源氏物語	本体： 14,000円+税	部	公費・私費
文学史としての源氏物語	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
古代物語としての源氏物語	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
三稜の玻璃—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—	本体： 14,000円+税	部	公費・私費
異貌の『源氏物語』	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
危機下の中古文学2020	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
源氏物語を開く 専門を異にする国文学研究者による論考54編	本体： 14,000円+税	部	公費・私費
源氏物語の表現と絵画的展開	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
〈今・ここ〉に効く源氏物語のつぶやき	本体： 1,200円+税	部	公費・私費
よく和歌る源氏物語	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
源氏物語生々流転論考と資料	本体： 16,000円+税	部	公費・私費
更級日記上洛の記千年—東国からの視座	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？—リベラル・アーツの可能性に向けて—	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
平安文学の人物と史的世界—随筆・私歌集・物語—並製版	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
新装版 蜻蛉日記新考—兼家妻として「書く」ということ—	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
文献学の葉	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
知の遺産シリーズ⑦ 紫式部日記・集の新世界	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
知の遺産シリーズ⑥ 狭衣物語の新世界	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
知の遺産シリーズ⑤ 宇治十帖の新世界	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
万葉集の散文学—新元号「令和」の間テキスト性	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
大和物語の達成—「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
ものがたりたちの京都	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
仮名文テキストとしての伊勢物語	本体： 8,500円+税	部	公費・私費
新編 土左日記 増補版	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
文学としてのマンガ	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
文学に旅する	本体： 5,000円+税	部	公費・私費
長秋詠藻全評釈 上巻	本体： 14,500円+税	部	公費・私費
長秋詠藻全評釈 下巻	本体： 12,500円+税	部	公費・私費
後拾遺和歌集新風と「をかしき風躰」	本体： 8,800円+税	部	公費・私費
平安中期和歌文学攷	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
内侍所御神楽と歌謡	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
テキストの変容—動態としてのテキスト	本体： 11,500円+税	部	公費・私費
方丈記試論	本体： 14,500円+税	部	公費・私費
次世代に伝えたい新しい古典—「令和」の言語文化の享受と継承にむけて	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
日本文学の原風景	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
法の水荃—和歌とおはなしでひもとく仏教—	本体： 3,500円+税	部	公費・私費
歌めき 三上満贈答歌集	本体： 800円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
ご注文者		公費の場合	
お名前	お電話番号	お宛名	
ご送付先 〒		公費伝票類	
		日付有無 あり・なし	納品書 通
		見積書 通	請求書 通